



創立70周年にあたって

PTA会長
滝沢 茂男

神奈川県立鎌倉高等学校は、創立70周年を迎えました。この長い歴史は、PTAや同窓生、そして本校に係わった皆様の支えの賜物であり、心からお喜び申し上げます。

本校は、昭和3年3月設立の後、第二次世界大戦の復興期に、故城所校長のご提唱により、「日坂の松籟」詠われる現在地に移転され、多くの有為な人材を社会に送り出して参りました。本校を巣立っていかれた多くの卒業生の胸の中には、この地で過ごし、夢を語った熱き青春の炎がいつまでも燃えつづけていることでしょう。

70年の歴史の重みは地域社会の誇りとなっております。困難に挑戦していく強い精神力と、共に乗り越えていく友情を育むという理念を掲げ、社会の混乱を乗り越えて参りました。少子高齢化による年金・健康保険制度などの危機、国際化からくる競争社会への転換といった必然の社会変化により21世紀初頭は未曾有の変革期になります。この時に当たり、生徒諸君には本校の伝統を受け継ぎ、これからの変革に負けることなく、よりよい変革を実現できる人に成長してほしいと願っております。

現在、本校は「国際理解教育」を特色としており、同時に地域に開かれた講座を持つという、まさに時代に求められている教育が実践されています。鎌倉高校の新たな発展が新たな時代を開き、個性のきらめき、そして愛情と友情にあふれた豊かな社会と平和な国づくりに貢献されることを期待しております。



鎌倉高校の将来

生徒会長
加藤 一機

県立鎌倉高等学校が創立70周年を迎えました。もうほとんど一人の人間の一生と同じくらいの長さを生きたことになり、もはや鎌高には人間味さえ感じられます。

私は鎌高が繰り返される出会いの中で、一人の人間と同じ命の重みを持ってきたのではないかと思います。

卒業された先輩方も、かつての鎌高を見てそう思ったことでしょうかし、改めて今の鎌高を見ても、より一層その歴史の深みを感じると思います。

鎌高はまた、時代の流れとともにそのスタイルも変えてきました。国際社会という時代に合わせるようにして、国際理解ホールが建てられ、学校や家庭で留学生の受け入れも行われるようになりました。生徒もまた時代に合わせて、時代にながされるということではなく、肯定的な意味で自分達の在り方を決めています。

鎌高が、一人の人間としての意味や価値を持っているのであれば、時代とともに発展することはとても素晴らしいことだと思います。そしてこれからも、時代の流れとともに進化発展し、その姿を変えていくことでしょうか。私たちがまた、鎌高とともに成長し、新しいスタイルを築き上げていきたいと思っています。

私たち鎌高生の中で、変わらないものもあります。それは、他に幾つもあるかも知れませんが、私たちが鎌高で高校生活を送っていくなかで沸々と湧き上がっているのを感じている情熱です。他校と比べたとしても、生徒が母校を思う気持ちはまた特別なものであると思います。これは、ただ単に伝統という意味だけでなく、鎌高で学んだ全ての人が共有できる喜び、そして符号鎌高生の証であり続けるでしょう。

これからも鎌高が発展を続け、鎌高らしさを時代にアピールすることが出来るよう祈って、これを挨拶の言葉とさせていただきます。